

## 日常臨床における再生療法 – そのエビデンス –

2018.7.29

富岡栄二（東京都新宿区開業）

GTR を人に適用した最初のケースが報告されてから 35 年、エナメルタンパクを用いた再生療法が紹介されてから 20 年が経過した。骨移植材の応用は、さらに古くから行われている。各種再生療法に関する長年の知見は集積され、2014 年に開催された米国歯周病学会のワークショップにおけるシステムティックレビューでは、再生療法をおこなう際の処置法の選択基準を簡潔に整理した **Decision Tree** が示されている。この **Decision Tree** は、現在の再生療法に関するエビデンスが集約されたものと言える。

再生療法は、進行した歯周病を治療する際の有効なオプションであり、その知見を背景に、「再生療法は予知性高くおこなえる治療法である」との見解が述べられていることがある。しかし、一人の患者を目の前にした時、その患者にとって“臨床的に意義のある結果、利益になる結果”をめざす臨床現場では、依然として“グレー（不明瞭、不確実）”な部分が残されている。

処置法の選択は、術者の限られた経験や検証されていない仮説ではなく、EBD（Evidence Based Dentistry）のアプローチをとり、できるだけ偏りのない判断にもとづいてされることが重要である。再生療法の有効性の他、“グレー”な部分についても、エビデンスが何を示しており、そのエビデンスがどのように臨床に関わるか、**Decision Tree** を提示しながら臨床的考察をしてみたい。

富岡 栄二 Eiji Tomioka

医療法人社団栄光会 富岡歯科医院 Tomioka Dental Clinic

1984年 東京医科歯科大学歯学部卒業  
1984～1987年 東京医科歯科大学歯学部第三補綴学教室  
1987～1988年 新狭山歯科医院勤務  
1988年 富岡歯科医院開設  
1991年 医療法人社団栄光会開設  
1995～1998年 スウェーデン イエテボリ大学歯周病科 歯周病専門医取得  
1998年 スウェーデン ウプサラ大学顎顔面外科・補綴科  
2010年～ 東京医科歯科大学歯学部歯周病学分野非常勤講師  
現在 医療法人社団栄光会 富岡歯科医院 理事長